

令和八年七月七日

各市町村立小・中学校長殿 県立各高等学校長殿
各支援学校長殿 私立各中・高等学校長殿

岩手県書写書道教育研究会会長 八木橋 哲男

盛岡市盛岡駅前北通一一〇
電話・FAX〇一九一六二二一三〇三

第五十五回岩手県小・中・高校書写書道作品募集について（お願い）

各位におかれましては例年書写書道作品コンクールにご高配をいただきまして、誠にありがとうございます。
本年も書写書道教育の振興と発展を願ひ、書写書道作品を募集することとしました。
つきましては左記の募集要項をご確認のうえ、多数出品くださいますようご案内申し上げます。

書写書道作品コンクール募集要項

◎主催
◎後援

岩手県書写書道教育研究会
岩手県 岩手県教育委員会 岩手県市町村教育委員会協議会 盛岡市 盛岡市教育委員会 吉丸正夫先生
生ご遺族 岩手県書写書道教育研究協議会 岩手県芸術文化協会 岩手書道協会 N日K盛岡放送局
I B C 岩手放送 岩手日報社
硬筆作品・毛筆作品

◎募集作品

・用紙規格 硬筆 B5版 白上質紙 小学校低・中・高学年・中学校とも本会指定の添付用紙の規格による。
毛筆 半紙（縦三十三・五 横二十四・五 以内のもので、縦に使用）
・課題 小・中学校は裏面の課題のとおり、高校は毛筆半紙縦のみ 課題自由
課題作例・練習用紙等は、裏面二次元コートからダウンロードできます。
・書体 小学校は楷書 中学校は楷書または行書 高校は自由
・硬筆用具 小学校・中学校とも黒のフェルトペン等。（水性が望ましい。）鉛筆は認めない。
・出品点数 硬筆・毛筆一人各一点 学校から出品すれば塾等からは出品できない。また塾等から出品すれば学校からは出品できない。個人での出品はできない。

1 硬筆・毛筆とも一点につき五百円（本会には四百五十円を作品発送時にご送金下さい。五十円は事務処理費等にご使用して下さい。）
2 出品料は必ず郵便振替で（口座番号：〇三六〇一五八三三七 加入者名：有限会社岩手県書写書道教育研究会）
お送り下さい。それ以外の送金は取り扱いません。なお、送金手数料はご負担願います。

3 返金の場合には、所定の手数料をご負担願います。
小・中学校 令和八年十一月五日（木）
高校 令和八年十二月四日（金）
締切日の消印有効

◎作品締切

◎審査

◎入賞通知

◎奨励賞

◎学校賞

◎出品要領

1 作品には硬筆・毛筆一枚ごとに学校名・団体名（ゴム印可）氏名（本人自筆）を明記して下さい。なお氏名が出品目録と異なる場合には、左欄外に正規の氏名を鉛筆で必ず書いて下さい。（ひらがなで書いたときなど）
2 硬筆・毛筆作品の氏名の下に下記の例の様に鉛筆で学年順に全体の通し番号を記入して下さい。
3 作品は、募集要項添付の出品目録の通し番号順にならべ、出品目録を添えて出品して下さい。出品目録が不足の場合にはコピーをして記入下さい。
4 支援学校・書塾等の出品目録は、小・中・高校別に記入して下さい。
5 出品目録を、岩手書道協会ホームページ、または裏面二次元コートからダウンロードして作成してもよいです。なお、出品の際には、作成した目録をB4サイズの用紙に印刷して作品と一緒に提出してください。

記入例
学校名（団体名）氏名 1
通し番号

◎展示

◎作品集

◎その他

◎作品送付先

1 作品は本会にご寄贈下さい。
2 賞状記名は誠に恐れ入りますが、出品目録により応募校・書塾等でご記入下さるようお願いいたします。
なお、別紙「賞状揮毫者紹介申し込みについて」、賞状記名を希望された学校には、記名者を紹介いたします。
3 硬筆用紙は本会指定の枠を印刷した用紙を左記、取扱店で頒布します。
取扱店 佐々長商店 盛岡市仙北一丁目一四一二（電話〇一九一六三六〇九二七）
一冊百枚綴り四百円（消費税込み）送料実費

事務局 〒二二〇一〇三三 盛岡市盛岡駅前北通一一〇 橋市盛岡ビル二階 岩手県書写書道教育研究会 宛
電話・FAX 〇一九一六二二一三〇三 メールアドレス (syosya03@gmail.com)
※メールアドレスが変更になりました。誤送信にご注意ください。



- ・出品目録
- ・課題
- ・指導留意点
- ・練習用紙

※印刷の用紙設定は、毛筆課題はB4、硬筆課題はB5にしてください。

◎毛筆半紙の部

学年	一年	二年	三年	四年	五年	六年	中一	中二	中三
課題	い	う	里	文	高	空	友	校	の思い
部	け	み		作	原	港	情	風	道い

◎硬筆の部

小一年	小二年	小三年	小四年	中一年
ま	と	び	ろ	み
し	を	を	あ	つ
た	さ	し	る	う
。	く	方	言	し
	文	を	葉	よ
	に	集	を	う
	か	め	べ	調
	き	て	て	べ

小一年	小二年	小三年	小四年	中一年
ま	と	び	ろ	み
し	を	し	あ	つ
た	さ	し	る	う
。	く	方	言	し
	文	を	葉	よ
	に	集	を	う
	か	め	べ	調
	き	て	て	べ

一握の砂
東海の小島の磯の白砂に
われ泣きぬれて
かに泣はむる
不孝のお城の草に凝ころびて
空に吸はれし
十五の心

石川啄木

小二年

黄	の	た	て
色	花	か	い
い	に	い	ま
た	に	日	す
ん	、	が	。
ば	あ	当	
ば	た	た	
	た	っ	

小五年

俳句は、五・七・五の十七音
で成り立ち、季節を示す語
として決められた「季語」を入
れて作るのが長い間のならわ
しとなっています。

中二年

自然は自然
流然の中で
せわしげに
おきてを語る
その声は何も
ささやきこ
えない
遠いみどりの
舟
それだけの
こと

黒田三郎

小三年

人	の	る	よ
お	に	手	う
世	あ	紙	。
話	て	を	
に	て	を	
な	っ	き	
っ	お	た	
た	れ	え	

小六年

作者が、場面の様子や登
場人物の気持ちなどを効果
的に表現するために、どんな
ふうをしているかに気をつけて
物語を読もう。

中三年

『よだかの星』
人に迫害される悲しさとして、自分が
生きていくうえで他の生命を犠牲にして
いくことの苦しさ、「よだか」はそんな矛盾
たいと願う……。これは宮澤賢治の
童話の傑作である。

岩手県書写書道教育研究会

〒020-0033

住所 盛岡市盛岡駅前北通1-10

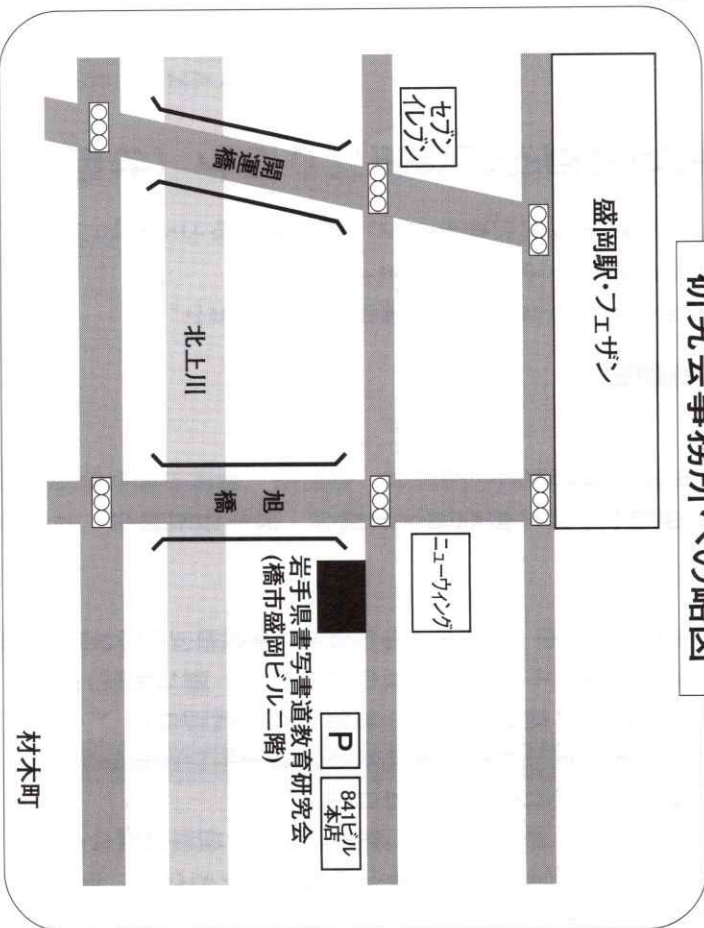
橋市盛岡ビル二階

電話・FAX 019 (622) 1303

作品受付 平日 午前10時～午後4時

(土・日・祝祭日は除く)

研究会事務所への略図



※ 駐車場は当研究会に所用のある方のみ短時間の利用が可能です

	わ	た	し	は
	び	を	し	た
小一年	と	を	さ	く
	な	の	に	文
		き	に	に
			た	。

	黄	花	に	い	た
小二年	の	あ	春	が	当
	た	あ	た	日	た
	て	い	ま	す	。

	人	の	る	よ
小三年	に	気	手	う
	あ	持	紙	。
	て	ち	を	
	た	を	書	
	え	つ	き	
	れ	な	ま	
	た	っ	し	

	身	の	ま	わ	り	か
小四年	口	一	字	で	書	い
	あ	る	言	葉	を	集
	つ	づ	り	方	を	調
	み	ま	し	よ	う	。

小五年	俳句は、五・七・五の十七音	で成り立ち、季語を示す語	として決められた「季語」を入	れて作るのが長い間のならわ	しとなっています。
-----	---------------	--------------	----------------	---------------	-----------

作者が、場面の様子や登場人物の気持ちなどを効果的に表現するために、どんなふうをしているかに気をつけて物語を読もう。

一握の砂 石川啄木	東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて かにとたはむる	不來方のお城の草に寝ころびて 空に吸はれし 十五の心
--------------	-----------------------------------	----------------------------------

自然は 自然	黒田三郎	沈黙の中ですべてを語る せわしげに素どおりしてゆく者には その声は何もきこえない 遠いみどりの岬 柵の中の砂 それだけのこと
-----------	------	---

『よだかの星』 人に迫害される悲しさ、そして、自分が生きていくうえで他の生命を犠牲にしていくことの苦しさ。『よだか』はそんな矛盾した世界を離れて、永遠に輝く星になりたいと願う……。これは宮沢賢治の童話の傑作である。
--

備考 1、小五・六年の一行の字数は、参考手本の通りでなく、多少移動があってもよい。
2、中学校は、行書体でもよい。中一・中二の硬筆文字の配置は作例通りとする。
3、許容については、教科書に準拠する。

小六年

中一年

中二年

中三年

小一年

ハハ

小二年

ハハ

小三年

里

小四年

作文

小五年

高原

小六年

空港

中一年

友情

中二年

校風

中三年

思い出

備考 1、中学校は、楷書・行書体どちらでもよい。
2、許容については、教科書に準拠する。
左記のように書いてもよい

